

2026. 6. 9

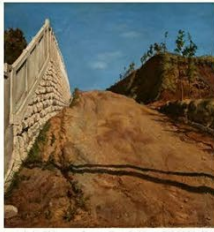
つながる、次へ

NHK 日曜美術館50年展

ムンク・伊藤若冲・ピカソ・葛飾北斎・岡本太郎・石田徹也

・長沢芦雪・ルドン・岸田劉生・ルオー・松本竣介・志村ふくみ・李禹煥・山口晃

・ジャコメッティ・曾我蕭白・マグリット・安藤緑山・速水御舟・ベーコン・石内都



NHK 日曜美術館 50年展

NHK Sunday Museum
50th Anniversary Exhibition

2026
アレもコレも大集合。 7.18日曜 ▶▶▶ 9.27日曜

開館時間 10:00~17:30(観覧客への入場は17:00まで)
休館日 月曜日 ただし、7/20(月・祝)、9/21(月・祝)は開館し、7/21(火)、9/24(木)は休館
観覧料 一般 1,800円(1,600円)、70歳以上 900円(800円)、大学生以下無料
* (1) 年齢制限のない絵画・彫刻等 * 企画展、コラボ展も併せて観覧いただけます
* 特別展等では、観覧料を別途徴収する場合があります。併せて観覧の際は、別途観覧料を徴収させていただきます
* 観覧料は当日現金でのみ受付です
* 企画展・コラボ展は別途観覧料を徴収する場合があります
* 企画展・コラボ展は別途観覧料を徴収する場合があります
主催 静岡県立美術館、NHK静岡放送局、NHKエンタープライズ中部
企画協力 日経エッセイーズグループ 監修 NISSHA

開館
40周年
since 1986

静岡県立美術館
Shizuoka Prefectural Museum of Art

〒422-8002 静岡市駿河区南島53-2
https://szmoma.shizuoka.shizuoka.jp
企画展受付 Tel. 054-263-5755 Fax. 054-263-5767
学芸課 Tel. 054-263-9857



IAI AIAアールエフ Shizuoka 株式会社 村上隆明 株式会社 Suzuyo

・歌川国芳・セザンヌ・高橋由一・倉俣史朗

展示概要

美術番組の先駆けとして知られるNHK「日曜美術館」。この番組をきっかけに美術に興味を持ち始めた、気になるアーティストを見つけた、という方も多いのではないのでしょうか。放送開始から50年を迎えるのを機に、これまで番組に登場した作品の数々と出会える、特別な展覧会を開催します。古代から現代まで、幅広い時代や地域から集めた120点以上の作品を、5つの章でご紹介。あわせて、50年間の放送から厳選した名場面を展示室で上映し、作家自身、あるいは錚々たるゲストたちの言葉を通して、創作の秘密や美術と向き合う醍醐味に触れていただきます。

「日曜美術館」の歩みとともに、時代と美術と私たちの半世紀におよぶ関わりをたどる展覧会、どうぞご期待ください。

章構成

- 第1章 語り継ぐ美 時を超えて美を語る言葉・語らせる作品
- 第2章 日本美の再発見 古代から明治まで
- 第3章 工芸 伝統と革新
- 第4章 災いと美
- 第5章 作家の生き様と美 アトリエ&創作の現場

みどころ

- 放送50年を迎えるNHK「日曜美術館」を彩った、120点を超える名品を展示**
西洋・日本の絵画や彫刻、浮世絵、屏風、土器、伝統工芸などジャンルを超えた名品が勢揃い！
- お蔵出しの番組映像・出演者たちがつむいできた言葉が展示室内に！**
出展作品がどのように語られ、紹介されたのかを当時の映像や言葉とともに追体験出来ます
- 第5章「作家の生き様と美 アトリエ&創作の現場」では、創作現場の貴重な映像が登場！**
制作中の作家の言葉・作品が生み出される瞬間を、作品と共に味わうことが出来ます

展示構成

第1章 語り継ぐ美 時を超えて美を語る言葉・語らせる作品

1976年4月、日曜美術館は「私と○○」という企画で放送を開始しました。各界の第一線で活躍するゲストが、敬愛する作家や作品への思いを語り、美の本質や創作の背景に迫る内容でした。彼らは「美の語り部」として、言葉にならない美を言葉でつむぎ、私たちと作家をつなぐ架け橋となりました。その言葉は、美を味わう手引きであると同時に、「人間とは」「自然とは」「生きるとは」といった根源的な問いへの入口でもありました。50年を経た今も、「美を語る言葉」を大切に伝えるという精神は息づいており、繰り返し取り上げられる作家や名品も多くあります。一人のゲストが同じ作家を30年後に再び語ることもあり、語りの熱は時代を超えて受け継がれています。それは作品自体が「語らせる」力を持ち、人々に感動と表現への衝動を呼び覚ます証です。名品と語り部の言葉が重ねた50年の美の軌跡は、今なお新たな感動を生み続けています。

大江健三郎が語るフランシス・ベーコン、舟越保武が伝える松本竣介、モデルとなった矢内原伊作が明かすアルベルト・ジャコメッティなど、各界の第一線で活躍するゲストの言葉とともに、古今東西の作家と作品をご紹介します。



アルベルト・ジャコメッティ
《ヤナイハラ I》
1960-61年
国立国際美術館蔵
撮影：福永一夫



ルネ・マグリット
《レディ・メイドの花束》
1957年 大阪中之島美術館蔵



高橋由一
《鮭》
1877年頃（重要文化財）
東京藝術大学蔵



岸田劉生
《道路と土手と堀
（切通の写生）》
1915年（重要文化財）
東京国立近代美術館蔵
※8/25-9/27展示

石田徹也
《飛べなくなった人》
1996年 静岡県立美術館蔵



エドヴァルド・ムンク
《ミスナー嬢の肖像》
1907年 ひろしま美術館蔵

第2章 日本美の再発見 古代から明治まで

1950年代の岡本太郎による縄文の美の再発見、1970年代の辻惟雄による江戸の奇想絵画の評価、そして琳派や浮世絵を現代アーティストが再解釈する動きなど、日本美術には、時代や人物の視点によって新たな光を放つ魅力があります。1976年に始まった「日曜美術館」は、放送初期から北斎や若冲を紹介してきましたが、2016年の若冲展では空前の行列が生まれ、日本美の再評価を象徴しました。2000年代以降は奇想の絵師の特集が増え、井浦新さんの企画による「“にっぽん”美の旅」シリーズでは縄文の美が数多く取り上げられました。奇想の強烈さ、縄文の造形力、浮世絵の多様な表現には、創造した芸術家の情熱とともに、受け止めた庶民の生命力が宿っています。そこには、日本の美の源流を自らの中に再発見する可能性が感じられます。

村上隆、大野一雄、井浦新らがつむぐ言葉で、縄文土器・土偶、伊藤若冲、曾我蕭白、葛飾北斎など、日本美術の名品が再び輝きだします。

葛飾北斎
《富嶽三十六景
神奈川冲浪裏》
1831年頃
和泉市久保惣記念
美術館蔵
※9/1-9/27展示



月岡芳年《義経記五條橋之図》
1881年
横浜美術館蔵（加藤栄一氏寄贈）

伊藤若冲《仙人掌群鶏図》（部分）
1789年（重要文化財）大阪・西福寺蔵
※8/25-9/27展示



《縄文土器 深鉢 火焰型土器》
新潟県長岡市 岩野原遺跡出土 縄文時代（中期）
國學院大學博物館蔵

第3章 工芸 伝統と革新

50年間、日曜美術館が継続して取り上げてきたのが「工芸」です。1976年の「日本伝統工芸展」から始まり、翌年からは「正倉院展」も放送し、日本の優れた工芸美術を紹介してきました。番組では、正倉院の宝物や、各時代を代表する匠たちの制作風景、そして技と素材に真摯に向き合う姿が映像として残されています。その中には、後に人間国宝となる職人たちの若き日の挑戦や、親から子へと受け継がれる技の葛藤、厳しい時代にも続く伝統継承の奇跡が映し出されています。近年は、明治から現代に至る超絶技巧にも注目し、過去の名工の技に学びつつ新たな表現を探る若手作家たちを紹介しています。自然と深く結びついた日本の工芸の誇りと精神は、今もなお匠たちの手の中で脈々と受け継がれているのです。

正倉院宝物（模造）、松田権六、室瀬和美、森口華弘・邦彦、安藤緑山、塩見亮介などの名品をご紹介します。



前原冬樹
《一刻 タイルに兎林檎》
2018年 作家蔵



室瀬和美
《蒔絵螺鈿八稜箱「彩光」》
2000年
国（文化庁）※7/18-8/23展示

第4章 災いと美

2020年、コロナ禍により美術館が休館し、番組の継続も危ぶまれる中で「日曜美術館」は大きな危機を迎えました。しかし「美を届けることを止めない」という信念のもと、過去の映像を活用した「蔵出し日本絵画・西洋絵画シリーズ」や、困難な時にこそ分かち合いたい作品を紹介する「#アートシェア」などが生まれました。中でも「疫病をこえて人は何を描いてきたか」は、災いと人間の表現の関わりを美の視点から見つめ直す象徴的な番組でした。古来より人は災厄に向き合う中で美を通してそれを理解し、昇華してきたことが明らかになり、災害や戦争に対しても同様の姿勢が見られます。戦争体験や自然災害の惨状と対峙しながら、創作を通して真摯に人間の在り方を問う作家たちの姿は、なぜ人は災いをも美で表現しようとするのかという根源的な問いを私たちに投げかけ、美の持つ無尽蔵の力を改めて感じさせるものです。本章では、災いに向き合い、理解し、受け止めるために美が果たしてきた役割とその力を考えます。

香月泰男、観光、野見山暁治、石内都などの作品とあわせてパブロ・ピカソの傑作《ゲルニカ》を高精細映像で展示します。



石内都《ひろしま#11 donor : Harada, A.》2007年 作家蔵
© Ishiuchi Miyako「ひろしま #11」 donor: Harada, A. Courtesy of The Third Gallery Aya

第5章 作家の生き様と美 アトリエ&創作の現場

作家のアトリエは、歓喜や苦悩、葛藤、孤独といったあらゆる感情が交錯する、美の舞台裏です。日曜美術館では 1980 年から「アトリエ訪問」シリーズを通して、多くの作家の創作現場を紹介してきました。散乱した空間もあれば道場のように整然とした場もあり、そこには作家それぞれの生き様と個性が刻まれています。作品がまさに誕生する瞬間に立ち会うことは、創造の核心に触れる特別な体験です。日常の何気ない出来事から着想を得る姿には、作家の内面や秘密を垣間見る喜びがあります。また、制作過程で語られる言葉の一つひとつには、創造という行為の深い意味が宿っています。見えないものを描こうとする探究や、人間や社会、自然への思索は、美を超えて生き方そのものを問う“美の哲学”といえます。アトリエという聖域での濃密な時間がある限り、新たな美が生まれ、世界に光をもたらし続けるのです。

岡本太郎、柚木沙弥郎、志村ふくみ、李禹煥、舟越桂、諏訪敦、山口晃など、放送時の映像とともに制作の過程で作家が語る言葉に耳を傾けながら、創造という行為の深淵を感じてみてください。



舟越桂
《水に映る月蝕》
2003年
個人蔵

関連 イベント

館長美術講座「日曜美術館にて2匹の魚を味わう」

9月13日(日) 14:00~15:30 会場：当館講堂
講師：木下直之（当館館長）申込不要／参加無料 先着250名まで ※手話通訳あり
当館館長による講演会です。

こども創作週間

7月18日(土)~20日(月・祝)／8月11日(火・祝)・12日(水) 各日ともに10:00~16:00(昼休み有)
会場：実技室 定員：24名程度 申込不要／参加無料／材料費不要
さまざまな材料、道具、アイデアが集まった当館の実技室をこどもたちに開放します。好きな創作活動をするもよし、コンクールの絵を描くもよし、探求学習のタネも見つかるかも!?お気軽にお越しください。

学芸員によるフロアレクチャー

7月26日(土)・8月22日(土)・9月6日(土) 14:00~14:40
集合場所：第1展示室 申込不要／要観覧券
企画展「NHK日曜美術館50年展」について展示室内で作品を前に行う展示解説会です。

見えない人と見える人の対話による鑑賞会

9月12日(土) 14:00-15:30頃 会場：講座室および展示室
定員：10名程度 要観覧券／要申込 募集開始：7月下旬を予定
障害の有無にかかわらず、来館者同士が自由に語り合いながら作品を楽しむ鑑賞会です。

開催概要	展覧会名	NHK日曜美術館50年展
	会期	令和8(2026)年7月18日(土)～9月27日(日)
	会場	静岡県立美術館(静岡市駿河区谷田53-2)
	休館日	毎週月曜日 ただし、7月20日(月・祝)、9月21日(月・祝)は開館し、7月21日(火)、9月24日(木)は休館
	開館時間	10:00～17:30(展示室への入室は17時まで)
	観覧料	一般1,800円(1,600円)70歳以上900円(800円)大学生以下無料 ※()内は前売および20名以上の団体料金。 ※収蔵品展、ロダン館もあわせてご覧いただけます。 ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、特定医療費(指定難病)受給者証・指定難病登録者証の交付を受けている方と付添者1名は無料。
	主催	静岡県立美術館、NHK静岡放送局、NHKエンタープライズ中部
	企画協力	NHKエデュケーショナル
	協賛	NISSHA
	アクセス	JR東海道線「草薙」駅 県大・美術館口から徒歩約25分またはバス(草薙美術館線 県立美術館行き)約6分、「県立美術館」バス停下車。 静岡鉄道「県立美術館前」駅 南口から徒歩15分またはバス(草薙美術館線 県立美術館行き)約3分、「県立美術館」バス停下車。 JR「静岡」駅からバス(北口11番のりば/県立美術館線 県立美術館行き)約30分、「県立美術館」バス停下車。 東名高速道路 静岡IC・清水ICから約25分、日本平久能山スマートICから約15分。新東名高速道路 新静岡ICから約25分。

次回企画展 「ゴールドマンコレクション 河鍋暁斎の世界」

2026年10月10日(土)～12月6日(日)

幕末から明治にかけて活躍し、いまなお国内外で高い人気を誇る絵師・河鍋暁斎。神仏画から戯画、動物画、妖怪画まで、手掛けた作品はいずれも卓越した画技と機知に溢れています。本展では、世界屈指の暁斎コレクションから厳選された、国内初公開作品を含む名品の数々をご紹介します。

同時開催展 「新収蔵品展」

2026年7月18日(土)～9月27日(日)

2025年度は42点の作品がコレクションに加われました。西洋美術9点、日本洋画7点、現代美術23点をご寄贈いただき、現代美術2点を購入、日本洋画1点を管理換で収蔵しました。これら新収蔵品を中心とする展覧会です。

静岡県立美術館 〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田53-2

Tel: 054-263-5857 Fax: 054-263-5742

本展に関するお問合せ

E-mail: gakugei@spmoa.shizuoka.shizuoka.jp

soumupma-shizuoka@pref.shizuoka.lg.jp

担当: 石上、貴家(さすが)、古家(学芸課) / 川口(企画総務課)

**広報用画像
申込書**

E-mail : gakugei@spmoa.shizuoka.shizuoka.jp / soumupma-shizuoka@pref.shizuoka.lg.jp

F A X : 054-263-5742 宛先 : 「NHK日曜美術館50年展」広報担当

本プレスリリースに掲載されている作品画像を、展覧会広報用に提供いたします。
ご希望の画像番号に○をつけて必要事項を記入し、上記メールアドレスまたはFax番号宛にお申し込みください。

<p>1</p>  <p>ルネ・マグリット《レディ・メイドの花束》1957年 大阪中之島美術館蔵</p>	<p>2 ※8/25-9/27展示</p>  <p>岸田劉生《道路と土手と堀（切通の写生）》1915年（重要文化財）東京国立近代美術館蔵</p>	<p>3</p>  <p>石田徹也《飛べなくなった人》1996年 当館蔵</p>	<p>4</p>  <p>エドヴァルド・ムンク《ミスナー嬢の肖像》1907年ひろしま美術館蔵</p>	<p>5</p>  <p>高橋由一《鮭》1877年頃（重要文化財）東京藝術大学蔵</p>
<p>6</p>  <p>アルベルト・ジャコメッティ《ヤナイハラ I》1960-61年 国立国際美術館蔵 撮影：福永一夫</p>	<p>7 ※8/25-9/27展示</p>  <p>伊藤若冲《仙人掌群鶏図》（部分）1789年（重要文化財）大阪・西福寺蔵</p>	<p>8</p>  <p>月岡芳年《義経記五條橋之図》1881年 横浜美術館蔵（加藤栄一氏寄贈）</p>	<p>9 ※9/1-9/27展示</p>  <p>葛飾北斎《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》1831年頃 和泉市久保惣記念美術館蔵</p>	<p>10</p>  <p>《縄文土器 深鉢 火焰型土器》新潟県長岡市 岩野原遺跡出土 縄文時代（中期）國學院大學博物館蔵</p>
<p>11</p>  <p>前原冬樹《一刻タイムに兎林檎》2018年 作家蔵</p>	<p>12 ※7/18-8/23展示</p>  <p>室瀬和美《蒔絵螺鈿八稜箱「彩光」》2000年 国（文化庁）</p>	<p>13</p>  <p>石内都《ひろしま#11 donor: Harada, A.》2007年 作家蔵 © Ishiuchi Miyako 「ひろしま#11」 donor: Harada, A. Courtesy of The Third Gallery Aya</p>	<p>14</p>  <p>舟越桂《水に映る月蝕》2003年 個人蔵</p>	<p>15</p>  <p>「NHK日曜美術館50年展」ポスター</p>

■ 申込者基本情報

御社名	_____	媒体名	_____
発行・放送予定日	_____	発行部数	_____
TEL	_____	FAX	_____
E-mail	_____	URL (ウェブの場合)	_____
連絡欄	_____		

◎本展を紹介してくださる媒体には、展覧会の招待券（5組10名様）を読者プレゼント用に提供いたします。
プレゼント用招待券を【希望する・しない】

送付先住所

【〒

】

【画像ご使用に際してのお願い】

- * 画像は本展覧会のご紹介のみを目的としてご利用いただき、使用後のデータは破棄してください。
- * 画像キャプションを必ず明記し、画像への文字載せ、トリミングをする際はご相談ください。
- * 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
- * 掲載後、広報担当者まで見本紙・誌を1部ご寄贈くださいますようお願いいたします。